

事業概要シート

施策	0302	芸術・文化の振興	≪≫の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く	
事業名	体育文化センター設備改修事業	現状維持	予算額	31,440 千円
事業期間	平成29年度 ~		≪	39,700 ≫千円
根拠法令 要綱等		財源内訳	国庫支出金	千円
			県支出金	千円
			地方債	千円
			その他	2,044 千円
			一般財源	29,396 千円

【事業の目的・概要・対象】

体育文化センターは、スポーツ及び芸術文化活動の拠点となる施設であり、施設がその機能を十分に発揮し、市や市民が行う安全安心で快適な活動に支障が出ないように維持管理整備を行う必要がある。

【主な施設設備改修（予定を含む）】

- 体育文化センター全体 ・外壁改修工事 ・冷却用空調熱源装置更新工事 ・照明制御装置改修工事
- スポーツ棟
 - ・メインアリーナ映像装置改修工事 ・メインアリーナ音響設備改修工事
 - ・メインアリーナ調光設備及び調光操作卓改修工事 ・メインアリーナLED改修
 - ・アリーナ雨漏り改修工事 ・防水シート改修
- 教養文化棟
 - ・さくらホール及びコミュニティセンター音響設備改修工事
 - ・ホワイエ雨漏り改修工事

【備品等更新】 ・トレーニングマシン更新

体育文化センター：文化・スポーツの中核施設

築25年以上

課題

〈備品等の老朽化〉

- ・ 使用期限超過
- ・ OSの非対応
- ・ 修理部品なし

〈新しい技術への対応〉

- ・ LED
- ・ デジタル化

〈設備等の老朽化〉

- ・ 外壁の老朽化
- ・ 空調機器等の劣化
- ・ 雨漏り対応

〈施設の維持〉

- ・ 改修工事等



計画的な設備改修が必要



故障などのトラブルを減らし、様々な演出が行える
更なる中核施設に高める

安心安全な利用ができる中核施設に

【背景】

体育文化センターは、築25年以上経過し、施設設備が老朽化してきている。デジタル化した最新の機器への更新や外壁改修など今後中長期的な改修が必要である。

担当課	教育委員会文化振興課	課長	大野 安生
担当者	末長 裕幸	問合せ先	0957-53-4111（内線386）

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	R 6 (実績)	R 7 (計画)	R 8 (計画)	R 9 (計画)	R 10 (計画)
①	改修工事数	計画値 件	2	2	3	2	2
②		計画値					

【成果指標】

指標名		単位	R 6 (実績)	R 7 (計画)	R 8 (計画)	R 9 (計画)	R 10 (計画)
①	設備改修率	計画値 %	60	60	60	65	65
②		計画値					

【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	合計
事業費	64,556	145,310	39,700	31,440	60,366	277,351	618,723
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債			11,600				11,600
その他	1,233	4,800	1,847	2,044	684	635	11,243
一般財源	63,323	140,510	26,253	29,396	59,682	276,716	595,880
人件費	2,329	3,658	3,736	2,282	2,282	2,282	16,567
職員(人)	0.32人	0.47人	0.48人	0.30人	0.30人	0.30人	2.17人
時間外勤務(h)	1h	28h	30h	50h	50h	50h	209h
会計年度任用職員(人)		0.10人	0.10人				0.20人
フルコスト	66,885	148,968	43,436	33,722	62,648	279,633	635,290

妥当性 (市の関与)	市の施設の改修であり、市が行うべき事業である。
有効性 (施策貢献度)	体育文化センターは、芸術文化活動を行う上で、本市の拠点施設であるため、その維持整備は施策に必要なことである。
効率性 (コスト)	外壁工事等本格的に工事が開始されているが、今後も事業を行う上で検討していく。

1次評価	築25年以上となり、施設・設備の改修・更新は不可避である。事業実施は必要。
2次評価	一次評価のとおり